

2010年2月2日 電話会議

2010年3月期第3四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

2010年3月期第3四半期連結業績と通期業績見込

単位:億円 (未満切捨て)	第3四半期(3Q)		第3四半期(累計)		通期		
	実績	前年同期間 比増減	実績	前年同期間 比増減	(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
売上高	1,166	-109	3,389	-314	4,485	-260	-
営業利益	58	+11	133	-4	151	-0	-
経常利益	54	+9	122	-9	136	-5	-
当期純利益	32	+6	79	+13	78	+17	-
EPS(円)	10	+2	26	+4	25	+6	-

注:(E)は今回発表した見込で、2009年10月27日に発表した前回(E)から変更はない。

1.売上高

- ① 3Q(10~12月)は9%の減収。全般的に景気後退による消費の不振や価格下落の影響が継続している。加工食品は前年比10%減収、家庭用が前年を上回るが低価格化や外食の不振など業務用の減収が続いている。水産・畜産は採算面を重視し慎重な取扱いを徹底したことから水産9%、畜産18%の減収となった。低温物流は欧州事業の悪化の影響が大きく2%の減収。
- ② 通期目標は前回予想を据え置く。

2.営業利益

- ① 3Qは前年比11億円の増益、通期予想に対しても想定どおりの進捗となっている。
- ② 加工食品は原材料価格低下、チキン加工品の採算正常化と家庭用の増収が寄与し7億円増益。水産・畜産は採算面を重視した慎重な取扱いにより前年と比べると合わせて7億円の大幅増益。低温物流は前年比3億円の減益ながら地域保管が引続き前年を上回って底固く推移。
- ③ 通期目標は前回予想を据え置く。

3.経常利益・当期純利益

- ① 前年は固定資産売却益が発生していたため特別損益は4億円の悪化。

2010年3月期第3四半期セグメント別売上高・営業利益と通期見込

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第3四半期(3Q)			第3四半期(累計)			通期					
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		(E)	前年同期間比		前回(E)比		
		増減	率		増減	率		増減	率	(E)	増減	
売上高	加工食品	401	-46	-10%	1,254	-94	-7%	1,686	-54	-3%	1,686	0
	家庭用調理品	117	2	2%	349	-3	-1%	463	2	0%	463	0
	業務用調理品	192	-46	-19%	599	-69	-10%	831	-38	-4%	831	0
	健康価値	18			67			83	-17	-17%	83	0
	その他	74			239			309	-1	0%	309	0
	水産	206	-20	-9%	544	-77	-12%	690	-71	-9%	690	0
	畜産	211	-46	-18%	594	-133	-18%	809	-116	-13%	809	0
	低温物流	369	-7	-2%	1,063	-35	-3%	1,395	-28	-2%	1,395	0
	物流ネットワーク	200	11	6%	570	18	3%	746	24	3%	746	0
	地域保管	120	-4	-3%	352	-6	-2%	458	-4	-1%	458	0
	海外	42	-16	-27%	126	-52	-29%	166	-58	-26%	166	0
	その他・共通	7	2	52%	15	5	50%	25	9	53%	25	0
	不動産	17	0	-2%	53	-3	-5%	70	-4	-5%	70	0
	その他	17	1	7%	51	3	7%	68	2	3%	68	0
	全社または消去	-55	9	—	-169	24	—	-233	11	—	-233	0
合計	1,167	-109	-9%	3,390	-314	-8%	4,485	-260	-5%	4,485	0	
営業利益	加工食品	11	7	221%	16	2	18%	17	-3	-16%	17	0
	水産	4	4	483%	8	0	-6%	7	4	155%	7	0
	畜産	3	3	1429%	6	-1	-12%	7	7	-2433%	7	0
	低温物流	28	-3	-11%	68	-6	-8%	78	-4	-5%	78	0
	物流ネットワーク	7	-1	-9%	17	-1	-4%	22	3	18%	22	0
	地域保管	19	1	5%	47	5	11%	50	0	1%	50	0
	海外	1	-4	-73%	7	-10	-60%	9	-8	-45%	9	0
	その他・共通	0	0	—	-2	0	—	-3	-1	—	-3	0
	不動産	10	-1	-6%	28	-3	-8%	36	-4	-11%	36	0
	その他	1	1	1588%	3	2	252%	1	-1	-55%	1	0
	全社または消去	2	0	—	4	2	—	5	1	—	5	0
合計	58	11	24%	133	-4	-3%	151	0	0%	151	0	

1.加工食品

- ①売上高は前年比10%減収。家庭用調理品は市場の内食拡大に加え米飯の増量セールが寄与し前年比2%増収。業務用調理品は19%の減収、外食はじめ業務用全般の客数減・低価格化の影響を大きく受けたほか、チキン加工品の一部OEM調達の打切りが想定以上の減収要因となった。一方で惣菜や外食ユーザーからの値ごろ感の要望にお応えしたコロッケの秋の新商品は導入が順調に進み、売上げ減少に歯止めがかかり始めた。
- ②営業利益は前年比7億円の増益。全般に原材料コストの低下が進んでいることに加えて、家庭用の増収が工場の稼働に寄与したこと、業務用のチキン加工品がOEM調達打切りの効果により採算が正常化してきたことが業務用減収による要因をカバーした。営業費用など固定費の削減も進んでいる。
- ③通期予想は業務用の売上げ減少懸念があるが、採算面では3Qでの改善傾向が4Qも継続すると想定し、売上高、営業利益ともに前回予想を変更しない。

2.水産

- ①売上高は前年比9%の減収、昨年よりさらに価格が低下する厳しい環境下、採算性を重視し取扱商材の選別を徹底した。この結果採算面では市況の急変による大きな損失は避けられ、得意分野のえびや、すしネタなど加工度の高い商材の取扱量が伸びていることから営業利益は前年比4億円の増益。
- ②通期予想は売上高、営業利益ともに前回予想を据え置く。価格は低水準のまま推移すると予想され、売上げの回復は見込めないが、在庫水準も正常で現状採算面の不安はない。

3.畜産

- ①売上高は前年比18%の大幅な減収、全般的な価格の下落に加えて、輸入品の取扱いを慎重に行っていることがその要因。採算面では昨年大きく足を引っ張ったブラジル産鶏肉や輸入牛肉の採算が大幅に改善し、営業利益は3億円の増益。
- ②通期は売上高、営業利益ともに前回予想を据え置く。

4.低温物流

- ①全体では海外の減収の影響が大きく、売上高は前年比2%減収。営業利益は3億円減益、欧州事業の影響が大きいが、地域保管は前年を上回って推移。
- ②物流ネットワーク:売上高は新センター稼働も寄与して前年比6%増収、営業利益は当社冷食の取扱い減や新規センターの立上げ費用の発生により1億円減益。
- ③地域保管:売上高は3%減収。在庫率低下がその要因、業界では昨夏以降貨物量が急速に減少し、3Qの業界の総合在庫率は前年比4.1ポイント低下、これに対し当社(全国)は1.5ポイントに留まっている。営業利益は貨物量減少を原価低減で吸収して1億円の増益。
- ④海外:売上高は27%減収、為替下落分が17%。欧州事業はロッテルダム港湾地区の在庫率改善が見られるが、その他の地域では運送・冷蔵倉庫とも前年比で貨物量減少が続いている。営業利益は4億円の減益、ポーランドの新センター稼働による初期費用負担が発生しているが大手流通の業務受託も進んでいる。
- ⑤通期は、売上高、営業利益ともに前回予想を据え置く。

5.その他

- ①バイオサイエンスで2Qに引き続き新型インフルエンザの検査キットの販売が好調、前回予想も据え置く。 3

2010年3月期第3四半期 営業外収支・特別損益の変動要因

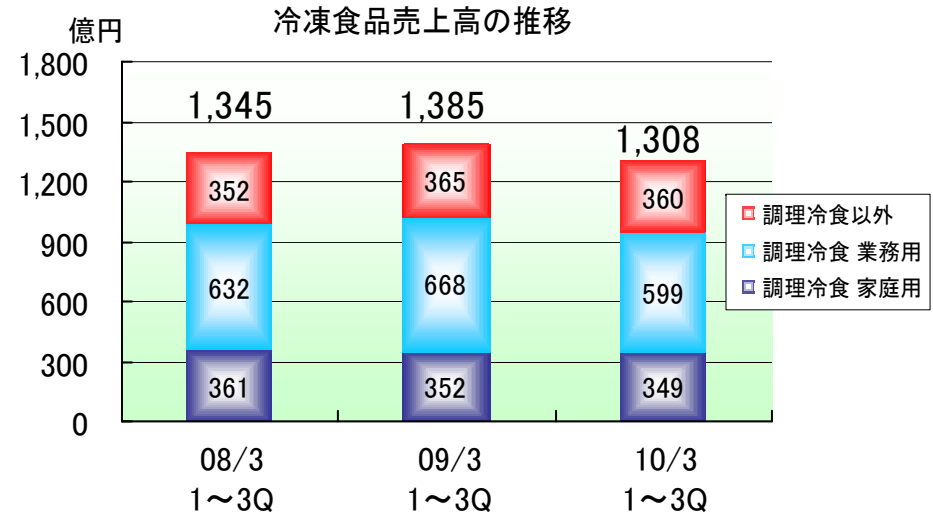
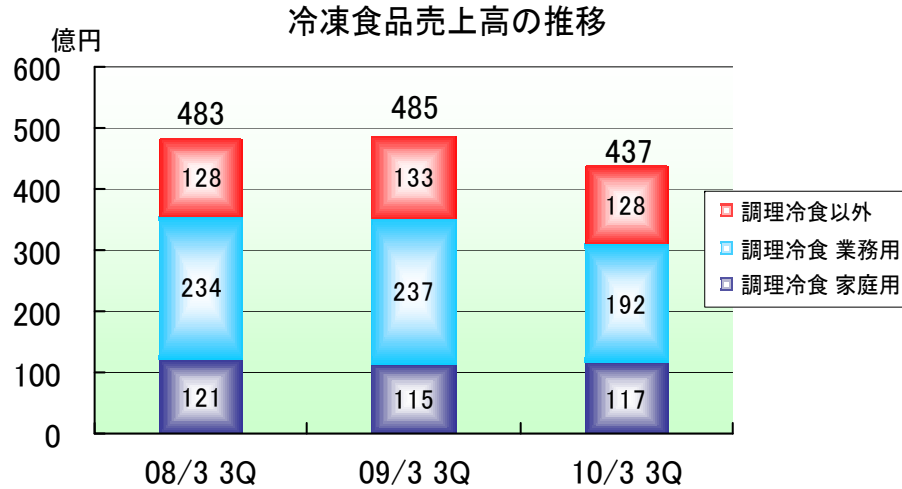
単位:億円(未満切り捨て) プラス表示は利益を示す		第3四半期(10-12月)					通期		
		09/12	08/12	増減			(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
【営業外収支】		-4	-2	-2	【営業外収支】		-15	-6	-
(主要項目)					(主要項目)				
金融収支		-3	-3	-0	金融収支		-14	-2	-
その他営業外収 益		-1	+0	-2	持分法投資損益		+1	-1	-
【特別損益】		-3	+1	-4	【特別損益】		-7	+21	-
(主要項目)					(主要項目)				
固定資産売却益	①	-	+4	-4	固定資産売却益		+3	-3	-
					事業譲渡益		+8	+8	-
リース会計基準の 導入に伴う影響額		-	-	-	リース会計基準の 導入に伴う影響額	②	-	-17	-

① 前期に発生していた固定資産売却益がなくなったため

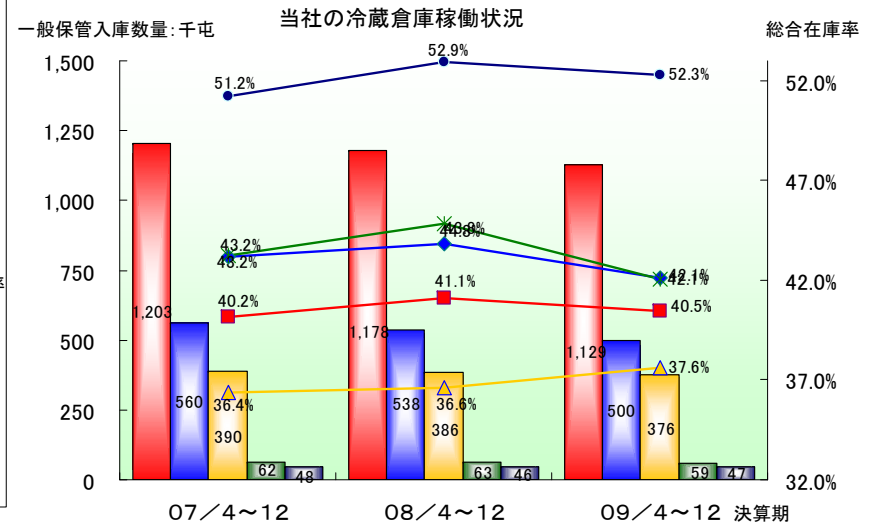
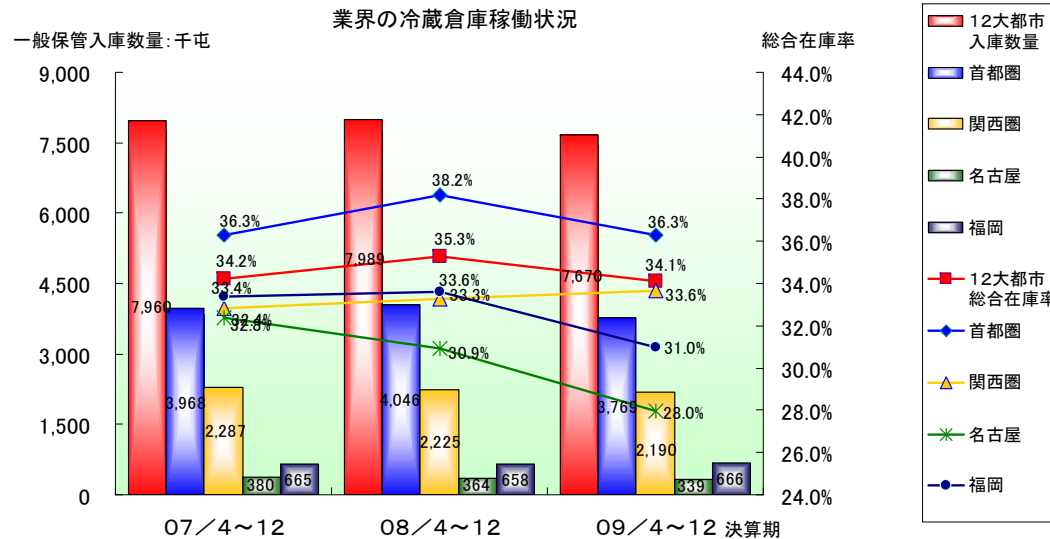
② 前期に発生していたリース会計基準の導入にともなう影響額がなくなったため

参考データ

冷凍食品売上高の推移 (日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



* 08/3期より12大都市に追加された札幌石狩地区、名古屋尾北地区は時系列比較の為対象に含めていない

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。